

2024年5月1日

自己点検・評価の結果や不断の改善・進化に向けた取組

東京都市大学 教育開発機構

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）に認定申請予定の「数理・データサイエンス・AI 応用基礎プログラム（デザイン・データ科学部）」について、当機構では下記のとおり、自己点検・評価を行った。

■プログラムの履修・修得状況

デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科において、プログラムの履修・修得状況の分析を実施し、学習支援システム(Webclass)を活用することで、履修データ分析により、受講者毎の講義演習進捗状況や課題への回答状況を把握することができる。これらのデータを授業担当者だけでなく、クラス担任も活用することで、プログラム履修や、学習進捗の状況を把握できる体制を整えている。

■学修成果

「数理・データサイエンス・AI 応用基礎プログラム（デザイン・データ科学部）」の授業内容と学修成果に関する点検・評価は、デザイン・データ科学部教務委員会で担っている。成績評価や授業評価アンケートの結果を分析することで、講義への理解度を把握するだけでなく、学生の特性との関係も分析することで、本教育プログラムの改善に役立てている。

■学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

「数理・データサイエンス・AI 応用基礎プログラム（デザイン・データ科学部）」の受講者全員に対して、授業改善および修学行動などの把握を目的とした授業評価アンケートを実施しており、各授業担当者が理解度の分析や講義の改善に役立てている。さらに、授業評価アンケートの結果に対するフィードバックを行うことで、学生の意欲向上に向けた取組みを行っている。

■学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

授業評価アンケートにおいては、後輩学生や他の学生への推奨度を直接的に問う設問はないが、受講生も含めた学生実態調査でのアンケートにおいて、後輩学生や他の学生への推奨について確認している。また、授業評価アンケートにおいて、「総合的にみてこの授業で力は付きましたか？」の設問を用意することで、学生の達成度や満足度を測っており、この設問の回答が良くなることを目指しており、それによって、後輩学生への推奨につながるかと考える。2023年度開講の「数理・データサイエンス・AI 応用基礎プログラム（デザイン・

データ科学部)」を構成する科目のうち1年生配当の科目では、設問「総合的にみてこの授業で力は付きましたか」(5:そう思う、4:まあそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)において、平均が3.94であった。

■履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

「数理・データサイエンス・AI応用基礎プログラム(デザイン・データ科学部)」を構成する科目は、デザイン・データ科学部の必修科目または選択必修科目であるため、基本的に、多くの学生が履修することになっている。さらに、履修者が学びやすい環境を整えるために、教員と学生が連携したラーニングサポートをラーニングコモンズに設置している。

■教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

「数理・データサイエンス・AI応用基礎プログラム(デザイン・データ科学部)」を開講するデザイン・データ科学部は、2023年度に開設したばかりであるため、まだ、プログラム修了者はいないが、予想される進路先としては、ITを専門とするような企業だけでなく、DX活動を実施したい製造業やサービス業においても、活躍が期待される。

■産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

「数理・データサイエンス・AI応用基礎プログラム(デザイン・データ科学部)」を開講するデザイン・データ科学部には、企業に在籍しながら教員を担当している特任教授がおり、その教員からの意見を聞くことができる。さらに、キャリア支援課とも連携することで、企業が求めるデジタル人材像を把握し、教育プログラムの改善に役立っている。

■数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

「数理・データサイエンス・AI応用基礎プログラム(デザイン・データ科学部)」の起点になっている「データサイエンス概論」では、データやAIの活用事例を知り、さらに、グループワークなどを通じて興味関心の向上を目指している。教員からの指導だけでなく、自ら学ぶことの楽しさ、他の学生との連携による新しい発見などがあるように、工夫を重ねている。

■内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

本学では、原則としてすべての科目で、定期的に授業評価アンケートを実施し、科目ごとに講義内容や実施方法の継続的な見直しを行っている。また、教員が担当以外の講義を参観できる期間を設けて、他の講義からの気付きを得る機会も用意している。近年、注目されている生成AIなどにおいても、有益に活用できる能力を身に付けることを目指して、授業改善を継続している。

以上